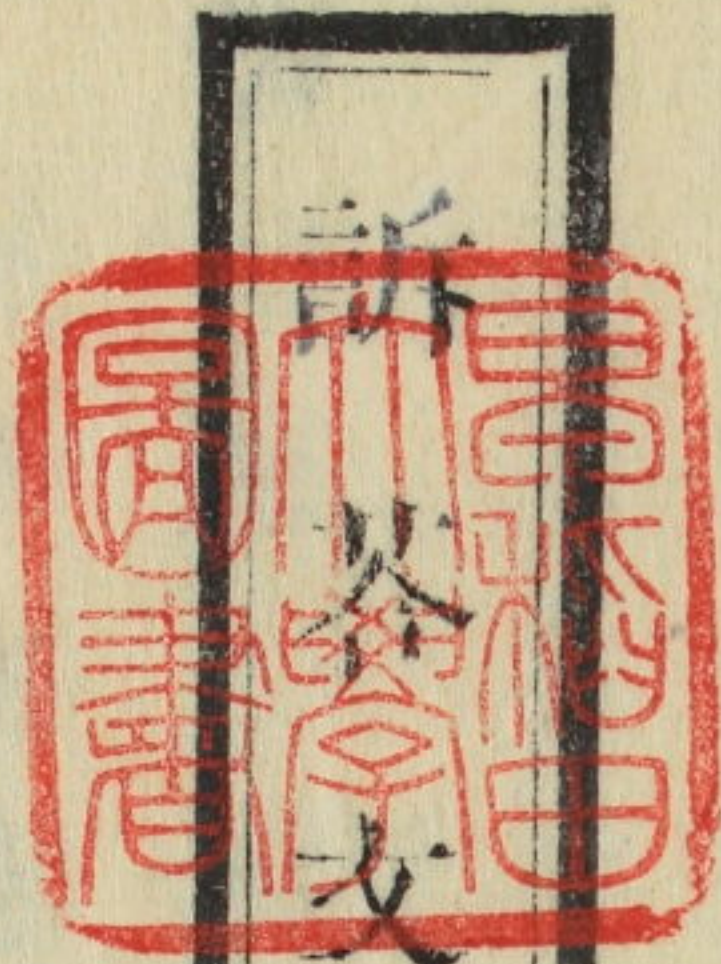




訴
答
文
例

7 14
6677





例



門 14
號 667
卷

訴訟答文例

第一卷 原告人ノ訴狀

第一章 原告人ヨリ被告^{コク}人住所身分

ノ書付ヲ取ル事

第一條 訴訟ヲ爲サントスル原告人

ハ其管轄^{シバイ}ノ村^{サト}役場^{サト}ノ添^{ソエ}翰^{カン}ヲ以テ被

告人^{コク}ノ現^{イマ}住^{ジユ}管轄^{シバイ}ノ村^{サト}役場^{サト}ニ至^イリ被

告人^{コク}ノ身分^{シバシ}ノ書^{シヤク}附^{ツケ}取^{トル}ル後^{ノチ}訴^{ウツ}狀^{シヤク}

明治六年

早稲田 大學 圖書館
昭 35.10.5 燐
藏 書

ヲ作ル可シ若シ住所氏名身分明瞭
ナラハ其書附ヲ取ルニ及ハス
住所トハ某縣府管下某國某郡某村所住
居又ハ寄留ト記スノ類
身分トハ官名役名華族士族神職僧
尼百姓何職何商賣何渡世ト記ス
類一各人ノ
若シ一户ノ本主ニ非ズシテ子弟又

ハ厄介ノ類ハ某ノ子弟又ハ某厄介
ト記ス可シ
第二條 原告人被告人ト管轄ヲ異ニ
シ道路隔絶ナラハ原告人我管轄ノ
村役場ニ願ヒ役場ノ文通ヲ以テ被
告人ノ氏名住所身分ノ書附ヲ取ル
モ亦妨ダ無シトス但シ役場文通ノ
入費ハ原告人ヨリ償フ可シ

明治六年

但此章原告外國人ナル時ハ本人名
前本國職分及寄留ノ處ヲ訴狀中
ニ記載シ次ニ被告ノ名前職分住
所等委細記載ス可シ

第二章 代書人ヲ用フル事

第三條 原告人訴狀ヲ作ルハ必ス代
書人ヲ撰ミ代書セシメ自ラ書スル
ヲ得ス但シ從前ノ差添人ヲ廢シ

之ニ代ルニ代書人ヲ以テス

第四條 訴訟中訴狀ニ關係スルノ事

件ニ付被告人ト往復スルノ文書モ
亦代書人ヲシテ書セシメ且代書人
ノ氏名ヲ記入セシム可シ若シ代書
人ヲ經サル者ハ訴訟ノ證ト爲ス可
ヲ得ス

第五條 代書人疾病事故アリテ之ヲ

改撰カイセンスル時ハ即日頼主タノミヌヨリ裁判所
ニ届ケ且ツ相手方ニ報告ハクゴス可シ其
裁判所ニ届ケズ被告人ニ報告セザ
ル以前ハ假令代書スルモ代書人ト
看做ス丁ヲ得ス
但外國人ハ此章ノ限ニアラズ

第三章 訴狀ノ定則ノ事

第六條 訴狀ヲ作ルニハ左ノ定則ニ

循シタカ

第一 訴狀ハ簡明確實ニシテ憑據ト

爲ス可キ事件ヲ掲ゲ文飾冗長ナラ

ザル丁ニ注意シ自己ノ想像ヲ以テ

踪跡ナキ事件ヲ述ル丁ヲ得ズ

第二 一切ノ訴狀ハ首ニ原告被告人ノ

氏名ヲ記シ住所身分ヲ肩書ニシ其
末ニ年月日ヲ記シ原告人ト代書人

トノ氏名連印スベシ附錄第一号ヲ見合ス可シ
但外國人ノ爲ニハ第一章但シ書ガキヲ見ル可シ

第三 訴狀ノ末ニ署スル氏名ハ其本人自署ス可シ若シ自署スルノ能ハサル時ハ其旨ヲ氏名ノ肩ニ記スベシ

第四 訴狀ハ十六行ニシテ一行十五

字詰ニ認メ正副ニ通シ具ス可シ但外國人ノ訴狀ハ銘々英佛語ヲ以認ルノ得ベシ其日本翻譯ハ裁判所ニ於テ正副ニ通シ認メ其手數料ヲ取立ツベシ
第五 被告人ノ住所呼出ヲ受ク可キ裁判所ノ八里ノ距離外ニ在ル時ハ其里數ヲ被告人ノ氏名ノ左側ニ記

載ス可シ若シ八里以内ナル時ハ其
里數ヲ記載スルニ及ハズ

第四章 訴狀ノ書式ノ事

第七條 貸附米金等淹滞ノ訴狀

貸附米金等淹滞ノ訴狀ハ住所氏名
ノ次ニ米金元利ノ計算ト貸渡シタ
ル年月日トノ標記シ次ニ證書ノ全
文ヲ寫載シ次ニ期ノ過キテ返濟セ

ザル事情ヲ書ス可シ附錄第二号ヲ見合人可シ

田畠ヲ貸渡シタル小作米金又ハ物

品ノ損料金又ハ諸種ノ立替金又ハ

召抱人等ノ引負金又ハ職人等ノ前

貸米金又ハ貸地貸家等ヲ受取ラシ

トスルノ訴狀モ亦本條ニ照ス可シ

但以下十九條迄原告外國人ナル時

ハ其訴訟ノ趣意并願意ヲ簡明ニ

記載ス可シ 但附録第十八号ヲ見合ス可シ

第八條 預ケ米金淹滞ノ訴狀

預ケ米金淹滞ノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ米金ノ員數ト預ケタル年月日トヲ標記シ次ニ其證書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約シテ返濟ヒザル事情ヲ書ス可シ 借地等ノ敷金又ハ妻及ヒ養子女等

ノ持參金又ハ實家若クハ親族等ノ仕送り金ヲ受取ントスルノ訴狀モ亦本條ニ照ス可シ

第九條 賣掛代金淹滞ノ訴狀

賣掛代金淹滞ノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ金高ヲ標記シ次ニ其帳面總計ノ高ヲ出シ之ニ被告人ノ證印アルヲ記入シ次ニ違約淹滞シタル事

情ヲ書ス可シ附錄第三号ヲ
賣掛代金又ハ旅籠代金賄代金等通
帳附込帳等ニ被告人ノ證印ナキ時
ハ原告人ノ證據ト爲ス可キ得ス
第十條 手附金賣買違約ノ訴狀
諸物品ヲ買ヒ手附金ヲ渡シ約定期
限内ニ殘金ヲ渡シタル時
至リ被告人違約シテ諸物品ヲ渡サザ

ルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ買付タ
ル物品ノ總高次ニ手附金ヲ渡シタ
ル年月日及ヒ殘金ヲ渡シ物品ヲ受
取可キ約定期限ノ年月日ヲ標記シ
次ニ約定書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違
約ノ事情ヲ書ス可シ附錄第四号ヲ
諸物品ヲ賣リ手附金ヲ受取リ約定
期限ニ至リ殘金ヲ受取ル可キ時ニ

被告人違約シテ殘金ヲ渡サブルノ
訴狀モ住所氏名ノ次ニ手附金ヲ受
取リタル年月日及ヒ殘金ヲ受取リ
物品ヲ渡ス可キ約定期限ノ年月日
ヲ標記シ次ニ約定書ノ全文ヲ寫載
シ次ニ違約ノ事情ヲ書ス可シ
附錄
第五
第十一條 受負料淹滞ノ訴狀

諸職業受負淹滞ノ訴狀モ住所氏名
ノ次ニ受負ヒタル年月日ト受負ノ
金高ト既ニ受取リタル金數ト未タ
受取ヲサル金數トヲ標記シ次ニ約
定書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約ノ事
情ヲ書ス可シ
第十二條 奉公人違約ノ訴狀
奉公人ニ年期ヲ約シ前金ヲ渡シ其

明治六年

年期未滿内ニ其家ヲ出テ還ラザル
者ヲ取返サントスルノ訴狀モ住所
氏名、次ニ抱入レタル年月日ト約
定ノ年期ト前渡シノ金數トヲ標記
シ次ニ其證書ノ全文ヲ寫載シ次ニ
違約ノ事情ヲ書ス可シ
職業傳習ノ弟子職業練熟ノ後ハ禮
奉公ノ年期ヲ約シ年期未滿内ニ其

家ヲ出テ還ラザル者ヲ取戻サント
スルノ訴狀モ亦本條ニ照ス可シ
奉公人又ハ弟子奉公ノ者等其主人
師匠ヨリ受取ル可キ給米金滯滞ノ
訴狀モ亦本條ニ照ス可シ
第十三條 專賣免許ヲ犯シタルノ訴狀
專賣ノ免許ヲ得タル者ヨリ他ノ
倣密賣スル者ヲ差留メントスルノ

明治六年

訴狀ニ住所氏名ノ次ニ專賣免許ヲ
得タル年月日ト免許ヲ受タル役所
ノ名ト專賣免許ノ年限トヨ標記シ
次ニ免許ノ證印又ハ證書ヲ寫載シ
次ニ其密賣ノ事情ヲ書ス可シ
諸商工專賣ノ免許ナクシテ株式ト
稱スル者ハ自己ニ妨アルヲ以テ他
人ノ商業ニ差留ル事ヲ訴ル可シ得

第十四條 商社中取引ノ訴狀
商社中甲ノ商人ヨリ乙ノ商人ニ對
シ各種ノ取引ノ米金又ハ物品ノ類
ニテ乘合商賣ト稱スル者モ證書確
實ナル者ハ之ヲ訴ル可シ其
訴狀ハ取引ノ模様ニ付キ各種ノ本
條ニ照ス可シ

先^{サキ}ニ開^キキシ商社ニ後^{ノチ}ニ開^カントス
 ル商社ノ妨^{サマ}グル丁アルヲ以テ之ヲ
 訴^{コト}ル丁ヲ得^ズ但^シ專^ク賣^ル免^ス許^サヲ犯^ス
 丁ヲ得^ザルノ法ト相^チ抵^テ觸^ルスル丁無^シ
 ル可^シ見^ル第十^三條ヲ
 第十五條 夫妻離別ノ訴狀
 夫妻離別ノ訴狀ニ住所氏名ノ次ニ
 夫^ノ氏名^及ヒ婚^ノ姻^ノ年^月日

ヲ標^シ記^スシ次ニ其^ノ戶^長役^場江^届置^キ
 タル戶^籍人^別ヲ寫^シ載^シ次ニ離^ノ姻^ヲ
 爲^ス可^キ原^由ヲ書^ス可^シ
 原^告人^夫ナレハ其^ノ父^母若^シ父^母在^ラ
 ラザレハ祖^父母^在ラザレハ
 尊^族ノ親^尊族^ノ親^在ラザレハ同^等
 ノ親^同等^ノ親^在ラザレハ卑^族ノ親^卑
 卑^族ノ親^在ラザレハ近^隣又^ハ朋^友

明治六年

ノ内二人以上ノ奥書連印ヲ爲ス可
シ見附録第六号ヲ
原告人妻ナルモ前條ニ照シテ其父
母親族等ヨリ訴フ可シ若シ事危急
ニ出テ親族等ニ告ルニ暇ナキ時ハ
自ラ訴フ事ヲ得可シ

第十六條 養子女ヲ離別スル訴狀

養子女ヲ離別スルノ訴狀モ住所氏

名ノ次ニ養父母及ヒ養子女ノ生年
ト其養子女トナシタル年月日ヲ標
記シ次ニ原被雙方ノ戶籍人別ヲ寫
載シ次ニ離別ス可キ原由ヲ書シ原
告人親族在ヲサレバ近隣又ハ朋友
ノ内二人以上ノ奥書連印ヲ爲ス可
シ
本生父母ヨリ養子女ヲ取戻サント

スルノ訴狀モ本條ニ照ス可シ若シ
本生父母在ラザレバ其親族ヨリ訴
ル丁ヲ得ベシ
養子女ヨリ養父母ヲ相手取りテ自
ラ離別ヲ請ノ訴ヲ爲ス丁ヲ得ス
第十七條 家督相續ノ訴狀
家督相續ヲ爭フ訴狀モ住所氏名ノ
次ニ亡父母ハ死亡ノ年月日生父母

ハ其生年ト原被告人生年トヲ標記
シ次ニ其原被雙方ノ戶籍人別ト讓
狀遺狀等ノ證書アレバ其全文ヲ寫
載シ次ニ自己相續ス可ヤ條理ト被
告人相續ス可ヤ條理ナキ丁ヲ書ス
可シ附錄第六号ヲ見合ス可シ

第十八條 田畠山林等賣買違約ノ訴狀
田畑山林屋敷建家等ヲ買ヒ之ヲ受

取ラントスルノ訴狀及ヒ貸地貸家
ヲ取戻ラントスルノ訴狀モ第十條
ノ第一項ニ照ス可シ
田畑山林屋敷建家等ヲ賣リ之ヲ引
渡シテ其代價受取ントスルノ訴狀
モ第十條ノ第二項ニ照ス可シ
第十九條 經界ヲ爭フノ訴狀
國郡鄉村山川田宅等ハ分界ヲ爭フ

訴狀ニ住所氏名ノ次ニ其舊記繪圖
ノ枚數ヲ標記シ次ニ被告人ノ非理
ヲ書ス可シ
舊記繪圖ノ寫ハ別冊ト爲シ目錄ノ
附シ各番號ヲ朱記ス可シ
繪圖ハ色ヲ以テ區別シ原告ノ區域
ハ淺紅色ヲ用ヒ被告ノ區域ハ黃色
ヲ用ヒ爭フ所ノ區域ハ着色ヲ用ヒ

ス其他ノ經界ハ別色ヲ用ユ可シ
附録
第七号ヲ見
合入可シ

但第七條但シ書ヲ見ル可シ

第二十條 控告ノ訴狀

原被告人預審又ハ終審ノ裁判言渡
ヲ受ケ其裁判ニ服セバシテ之ヲ上
等ノ裁判所ニ控告セントスルノ訴
狀ハ住所氏名ノ次ニ訴訟ノ題目ト

其年月日ト裁判所ニ呼出サレタル

度數其年月日ト訟庭ニ臨ミタル裁

判役ノ氏名ヲ知ルヲ得可キニ於テ

ハ之ヲ記載シ次ニ其裁判言渡書ノ

寫ト裁決ニ服セザルノ旨趣トヲ書

シ且ツ前訴狀ノ寫ヲ別冊ト爲シ訴

出可シ但シ控告人ノ住所ト控告ヲ

爲ス裁判所トノ距離八里毎ニ一日

ノ猶豫ヲ得ルノ外裁決ノ言渡ヲ受
タル日ヨリ三ヶ月ノ期限ヲ過ル時
ハ控告ヲ爲ス丁ヲ得ス
預審又ハ終審ノ裁判以前ノ場合ニ
於テ其裁判後ノ曲庇壓制等アルヲ
以テ原被告人之ヲ上等ノ裁判所ニ
申告スル者モ亦本條ニ照ス可シ
第五章 一冊ノ訴狀ハ一事ニ止

ル可キ事

第二十一條 原被告人共人員多少ニ拘

ラズ訴狀ハ一事ヲ一冊ニ書スルニ

限ル可シ又原告人一名ニシテ全時

ニ數件ヲ訴フルモ訴狀ヲ各冊ニ作ル可シ

第六章 一冊ノ訴狀ニシテ二件以

上ヲ合スヲ得ル事

第二十二條 貸借二事以上ニシテ原被

告人共別人ニ非^レレバ一冊ノ訴狀ニシテ二件以上ヲ合スヲ得可シ

第七章 原告人連名ノ訴狀ノ事

第二十三條 債主連名ノ證文ヲ以テ米

金等ヲ貸附タル訴狀ハ連名ヲ以テ

訴フ可シ若シ債主連名三人ナルヲ

一人ニシテ訴フル時ハ他ノ二人ヨ

リ依頼ノ證書ヲ以テ訴フ可シ附錄第八

号ヲ見合
ス可シ

第二十四條 債主二人以上ニシテ管轄

ヲ異ニスル者アラバ甲ノ管轄ニ訴

ルモ乙ノ管轄ニ訴ル由^レ其便宜ニ從

フ可シ

第八章 連名ノ被告人ヲ訴ノル事

第二十五條 負債主連名ノ借用證文ヲ

以テ貸渡シタル米金等ノ訴狀ハ連

名ノ人数ヲ盡ク相手取ル可シ

第二十六條

負債主連名中若シ失踪死

亡等ニテ相續人ナキ者アラバ連名

ノ末ニ其人名ヲ記シ年月日失踪死

亡等ノ事ヲ其者ノ管轄戸長某ヨリ

承ルト附載スヘシ附錄第九号ヲ見合ス可シ

第二十七條

負債主ノ連名中管轄ヲ異

ニスル者アラバ甲ノ管轄ニ於テ審

判スルヲ願ヒ乙ノ管轄ニ於テアル
ヲ願フモ原告人ノ情願ニ任ス可シ

第九章 讓證文ヲ以テ訴ル事

第二十八條

甲ヨリ乙ニ貸シ又ハ預ケ

タル米金ヲ甲ヨリ丙ニ讓リタルニ

乙ヨリ丙ニ返濟セズシテ丙ヨリ乙

ヲ相手取リ其米金ヲ受取ントスル

訴狀モ住所氏名ノ次ニ甲ヨリ丙ニ

讓リタル證文ヲ寫載シ若シ甲ヨリ
 丙ニ讓リタル證文無レハ甲ト乙ノ
 關係ニシテ乙ト丙トノ關係ナシト
 ス故ニ丙ヨリ乙ヲ相手取ルイヲ得
 ス附錄第十号ヲ見合ス可シ
 第二十九條 父母祖父母等ノ貸附タル
 米金等ハ其家ノ相續ヲ爲シタル者
 ニ非レハ其子孫ニ貸シテ貸附證文ヲ

所持スト雖且父用祖父母等ノ讓渡
 シタル證書ナキ時ハ之ヲ訴ル丁ヲ
 得ズ
 但外國人ハ其本人ノ國法ニ隨ヒ
 正シキ權ヲ得可シ
 第十章 代官人ノ事
 第三十條 原告人ノ情願ニ因テ代官人
 ヲ代官人トシテ代官セシムルヲ許ス

代理人ヲ用フル者ハ其訴狀ノ奥書ニ代理人ニ依^タ賴^シシタル旨ヲ記載シテ原告人及ヒ代理人ノ連印ヲ爲ス可シ若シ連印ナクレバ代言セシムル^ル丁^ヲ許^スリズ附錄第十号第三十二條 原告人代理人ヲシテ代言ヒシムル時訟庭^ニ同席スル事ハ其情願ニ任^カス

第三十一條 訴訟ニ關係スル書類ハ代言^人又ハ保證人ノ類ト雖モ原告人ノ證ト爲ル可キ者ハ原告人ノ撰ヒタル代書人ヲシテ代書セシメ其代書人ノ氏名ヲ記人ヒシム可シ原告人ノ自書ヲ用フル^ル丁^ヲ得^ス書面ノ末ニ署スル氏名ハ其本人ノ自筆ヲ用ヒ代書人ヲシテ代書ヒシ

ム可カラズ若シ本人自署スル可シ能
ハザレバ其旨ヲ氏名ノ肩ニ記ス可
シ但第二章但シ書ヲ見ル可シ
訴訟中原告人又ハ代言人ノ疾病事
故ニ因テ假リノ代言人ヲ出ス時ハ
原告人又ハ代言人ヨリ假リノ代言
人ニ依頼スルハ證書ヲ出ス可シ若
シ證書十ヶレバ假リノ代言人ト爲

ス丁ヲ許サズ附録第十号

第二卷 被告人ノ答書

第一章 答書ノ定則ノ事

第三十三條 答書ヲ作ルニハ左ノ定則ニ

循フ可シ

第一 被告人裁判所ノ呼出狀ト共ニ

原告人ノ訴狀ヲ受取ル時原告人ノ

陳述スル所條理アラハ速ニ熟議シ

原告人之ヲ許諾セハ解訟ヲ請フ事
ヲ得ヘシ其場合ニ於テハ代書人ヲ
シテ熟議解訟ノ答書ヲ作ラシメ之
ヲ裁判所ニ呈ス可シ第四十七條及
合シス
第二原告人ノ述ル所非理不實ニシ
テ辨解ス可キ確證アラバ其書類ノ
全文ヲ寫載シ次ニ非理不實ノ事ヲ

書ス可シ
第二答書ノ首ニ被告人ノ氏名ヲ記
シ住所身分ヲ肩書ニシ答書ノ末ニ
年月日ヲ記シ被告人ト代書人トノ
氏名連印アル可シ附錄第十三号
第四答書ノ末ニ署名スル氏名ハ其本
人ノ自筆ヲ用ユ可シ若シ本人自署
スル不能ザル時ハ其旨ヲ氏名ノ肩

ニ記ス可シ

第五 答書ハ十六行ニシテ一行十五

字詰ニ認メ正副ニ通ヲ具ス可シ

第二章 代書人ヲ用フル事

第三十四條 被告人自ラ答書ヲ書スル

ヲ許サズ必ズ代書人ヲシテ代書セ

シム可シ其代書人ヲ撰ミタル時ハ

即日裁判所ニ届ケ且原告人ニ報告

ハ其他代書人ヲ用フル方法ハ

第三條第四條第五條第六條ニ照

可シ

第三章 代書人ノ事

第三十五條 被告人ノ代書人ヲ用ルニ

亦其情願ニ任ス然レモ必ズ本人自

ラ同伴^{子カヒ}シテ訟庭ニ出席シ其結局

本人ヨリ決答ヲ爲ス可シ

明治六年

廿八

第三十六條 被告人代理人ヲ出ス時ハ
答書ノ奥書及ヒ連印等ノ方法第三
十條ニ照ス可シ

第三十七條 答書ニ關係スルノ書類ハ
代理人又ハ保證人ノ類ト雖モ被告
人ノ證ト爲ルヘキ者ハ被告人ノ撰
ミタル代書人ヲシテ代書セシメ且
ツ代書人ノ氏名ヲ記入セシム可シ

被告人ノ自書ヲ用フルヲ得ス
書面ノ末ニ署スル氏名ハ其本人ノ
自筆ヲ用ヒ代書人ヲシテ代書セシ
ム可カラズ若シ本人自署スル丁能
ハザル時ハ其旨ヲ氏名ノ肩ニ記ス
可シ

第四章 原告人ノ返リ證文ヲ所
有シタル答書ノ事

第三十八條 債主原ノ證書ヲ還付セザルヲ以テ二重ノ催促ヲナス訴訟ハ被告人其答書ニ返リ證文返證文ハ債主ヨ付セズシテ其米金受取ノ證書ヲ還證書ヲ交付スルヲ云フヲ寫載シ次ニ原告人ニ重ノ催促ヲ爲シタル旨ヲ書ス可シ

第三十九條 原告人米金等ヲ受取リタル

ルノミノ證書ニシテ貸附ノ米金ヲ受取リタル確證ノ文字ナク又ハ他ノ憑據トス可キ證跡ナキ時ハ其米金ヲ受取タルノミノ證書ヲ以テ返リ證文ト看做ス了ヲ得ス

第五章 原告人ヨリ返濟延期ノ約ヲ破リタル答書ノ事

第四十條 借用ノ米金等ヲ返濟ス可

キ期限ニ至リ債主ヨリ債主ニ熟
議シテ返濟延期ノ約ヲ結ビ其證書
ニ押印ヲ爲シタル債主ヨリ其約ヲ
破リ本證文ニ據リ訴ヘタル答書ハ
對談一札對談一札トハ返濟アル丁
ヲ記シ次ニ其證書全文ヲ寫載シ
次ニ原告人ノ約ヲ破リタル丁ヲ書
ス可シ

第四十一條

負債主ヨリ返濟延期ノ約
ヲ破リタル事件ヨリ起リ債主本證
文ニ據リ訴出タル原告人由アル時ハ負
債主ナル者已レヨリ約ヲ破リタル
返濟延期ノ證書ヲ以テ原告人破約
ノ證トナス丁ヲ得ス

第六章

原告人證書ヲ偽造シタル
答書ノ事

第四十二條 被告人ノ證書ヲ原告人偽造シタル答書ハ其偽造ヲ證スル爲ニ管轄村ノ役場ニ届ケ置タル年月日ノ人別帳ノ寫ヲ記載シ次ニ此人別帳ノ印ト證書ノ印ト相違シタル旨ヲ書ス可シ

第七章 經界ヲ爭フ答書ノ事

第四十三條 國郡鄉村山川田宅等ノ分

界ヲ爭フ答書ノ方法ハ第十九條ヲ照ス可シ

第八章 既ニ訴ヘラレタル事件ニ未ダ

訴ヘザル事件ヲ接續スル事

第四十四條 負債主米金ヲ返濟ス可キ期限ヲ過ギテ返濟セザルヲ訴ヘラレタルニ別ニ其債主ヨリ受取ル可キ米金アリテ其受取可キ期限モ亦

夕過ギ未夕訴へズト雖用雙方均シ
ク返濟ノ約期ヲ破リタルヲ以テ兩
件ヲ接續シ差引ノ計算ヲ爲サント
スル答書ハ負債主ヨリ其別ニ受取
ル可キ米金ノ證書ヲ寫載シ次ニ差
引計算ヲ爲スノ旨ヲ書人可シ
第四十五條 負債主某甲債主乙某ヨリ
借用シタル米金ヲ返濟人へヤ期限

ヲ過ギテ訴へラレタルニ答ルニ當
リ某甲其借用シタル米金ハ更ニ丙
某ニ貸附ケ其期限ヲ過ギ返濟セザ
ルヲ以テ既ニ訴へラレタル乙某ノ
事件ト未夕訴へザル丙某ノ事件ト
ヲ接續シテ丙某ノ返濟ヲ爲ス可キ
米金ヲ以テ乙某ニ返濟セン丁ヲ答
ルヲ許サズ何トナレバ乙ノ貸ス所

ノ者甲ニシテ丙ニ非ズ丙ノ借ル所
ノ者ハ甲ニシテ乙ニ非ラザルヲ以
テナリ

第九章

對決前熟議解訟ヲ爲シ

タル答書ノ事

第四十六條 被告人訴狀ニ對シ辨解ス
ル可能ハザル者ハ速ニ原告人ト熟
議シ對決前ニ解訟ヲ爲シタル答書

ハ原告人承諾ノ奥書連印ヲ爲サシ
ム可シ附錄第十四号

第四十七條 前條ノ場合ニテ貸借淹滯

ノ訴ニ起ル解訟ノ答書ハ償ノ既濟

又ハ未濟ト雖凡更ニ延期ノ約ヲ結

ヒタル等ハ前條ニ照ス可シ各種違

約ノ訴訟ハ原被雙方ノ熟和ニ至リ

又ハ更ニ改定ノ條約ヲ立テタル等

モ亦前條ニ照ス可シ

第十章 對決前返濟延期ノ約定

ヲ爲シタル答書ノ事

第四十八條 原被告人對決審判前ニ被

告人ヨリ負債ヲ返濟スルノ延期ヲ

請ヒ原告人之ヲ承諾シ其審判ヲ仰

ガズ延期ノ日ニ至リ完ク返濟スル

後解訟ノ證書ヲ呈ヒシトスル者

ハ其答書ニ延期ノ旨趣ヲ書シテ原

告人承諾ノ奧書連印ヲ爲サシム可

シ附錄第十五号

第十一章 對決前親戚又ハ朋友ヨリ代償

ノ延期ヲ約シテ解訟ヲ爲シタル答書ノ事

第四十九條 原被告人對決審判前ニ被

告人ノ親戚又ハ朋友ヨリ被告人ノ

負債ヲ延期代償セシムヲ請ヒ原告

人之ヲ承諾セバ熟議解訟ノ答書ニ
其延期代償ノ旨趣ヲ書シ代償人及
ヒ原告人ノ奥書連印ヲ爲サシム可
シ附錄第十六号
ヲ見合ス可シ

第十二章 對決前親戚又ハ朋友ヨリ
代償延期ノ約定ノ爲シタル答書ノ事

第五十條 原被告人對決審判前ニ被
告人ノ親戚又ハ朋友ヨリ被告人

負債ヲ延期代償セン丁ヲ請ヒ原告
人之ヲ承諾シテ其審判ヲ仰カス延
期ノ日ニ至リ完ク返済スルノ後解
訟ノ證書ヲ呈セントスル者ハ其答
書ニ延期代償ノ旨趣ヲ書シ代償人
及ヒ原告人ノ奥書連印ヲ爲サシム
可シ附錄第十七号
ヲ見合ス可シ

詰答文例附録

詰答文例附録

第一號

訴狀表紙ノ式

美濃紙大半紙又ハ右寸法
ニ同ニキ紙ヲ用ユ可シ

年月日

某訴狀

住所

身分

氏名

明治六年

某訴狀トハ假令ハ貸金ノ淹滞ヲ訴ルハ貸金催促ノ訴狀ト記
レ流質地ノ争訟ハ流質地引渡催促ノ訴狀ト記スノ類
訴狀ノ式

某訴

原告人

住所

身分

氏名

被告人

住所

身分

氏名

標記云云

右原告人氏名申上候私儀云云

年月日

氏名印

住所

身分

代書人

氏名印

某

御裁判所

明治六年

第二號
貸金催促ノ訴狀

貸金催促ノ訴

原告人
住所
身分
氏名

被告人
住所
身分
氏名

一元金何圓
年月日貸附
年月日期限

一利金何圓
一年又二月幾分ノ利

合 何圓

右證文ノ寫左ノ如シ

借用證文

一金何圓

右云云

貸主

名當

右原告人氏名申上候云云

年月日

借主
氏名

證人
氏名

住所
身分

氏名印

住所
身分

氏名印

代書人

某

御裁判所

第三號

賣掛代金淹滞ノ訴狀

賣掛代金淹滞ノ訴

一金何圓

右賣掛帳ノ總計高二御坐候

但帳面ニ被告人ノ證印有之候

若賣掛帳ニ非又シテ證文ナレハ其證文全支ノ爲
出ス可シ

住所 身分

原告人 氏名

住所 身分

被告人 氏名

右原告人氏名申上候云云

年月日

氏名印

住所

身分

代書人 氏名印

某

御裁判所

明治六年

第四號
買附米引渡違約ノ訴狀

買附米引渡違約ノ訴

一米何石 年月日買取約定濟
此度受取可キ石高

代金何圓 一石ニ付
何圓替

内何圓 年月日手附金トシテ渡濟

殘何圓 年月日限現米引替ニ渡ス可キ約定

原告人 住所 身分
氏名

被告人 住所 身分
氏名

右約定證書ノ寫左ノ如シ
證書云云

右原告人氏名申上候云云

年月日

氏名印

住所 身分

代書人 氏名印

某
御裁判所

明治六年

第五號

賣附生系代金引渡違約ノ訴狀

賣附生系代金引渡違約ノ訴

原告人
住所
身分
氏名

被告人
住所
身分
氏名

一金何圓
年月日限生系引替ニテ
受取可キ殘金高

元金何圓
年月日生系何万賣附
約定ノ金高
但何万ニ付何圓替

内何圓
年月日手附金トシテ
受取濟

右約定證書寫左ノ如シ

證書云云

右原告人氏名申上候云云

年月日

氏名印

住所

身分

氏名印

代書人

某

御裁判所

明治六年

第六號

妻離別ノ訴狀

妻離別ノ訴

夫 氏名

當 何歳

妻 氏名

當 何歳
年月日 娶ル

某御役所ニ差出置候年月日ノ戸籍人別帳ノ寫左ノ如シ

住所

身分

原告人

氏名

住所

身分

被告人

氏名

人別帳云云

右原告人氏名申上候云云

年月日

住所

身分

代書人

氏名印

前書申上候處相違無御坐候

年月日

住所

身分

原告人ノ祖父
母父母等

氏名印

某

御裁判所

氏名印

明治六年

第七號

經界ヲ爭フ繪圖ノ式

年月日ノ原圖

何枚ノ一

年月日寫之

原告人

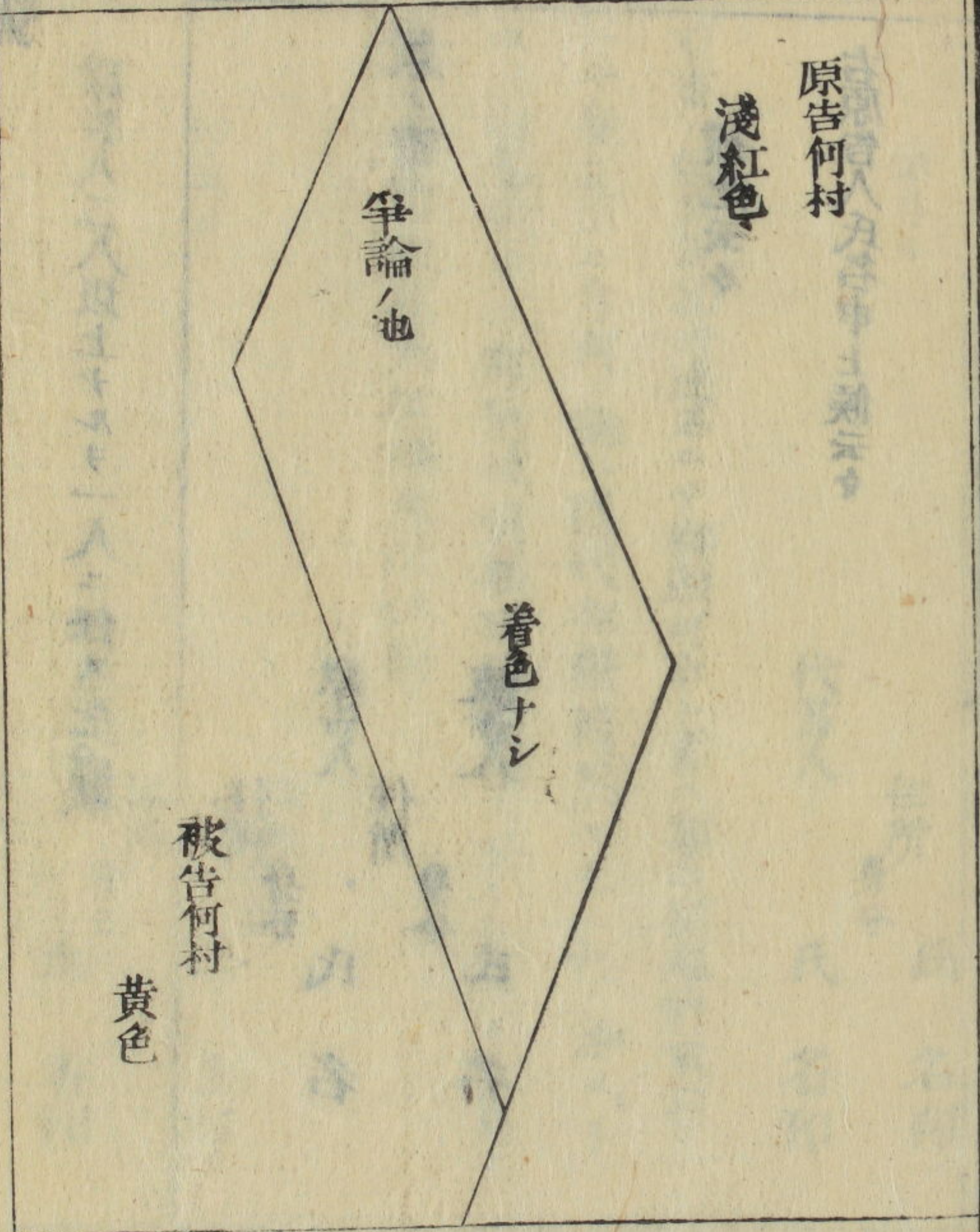
住所

身分

氏

名印

明治六年



原告何村

淺紅色

爭論ノ也

着色ナシ

被告何村

黄色

第八號

原告人三人以上ナルヲ一人ニ任スル詠狀

某ノ訴

標記云々

右原告人氏名申上候云々

住所	原告人
身分	氏名
住所	被告
身分	氏名

年月日

住所	代書人
身分	氏名印

前書ノ儀原告私共連名ニテ御願可申上者ニ御坐候處病氣云々
 ニテ難罷出ニ付何ノ誰ニ總代相頼候然ル上ハ何ノ誰ヨリ
 申上候事柄并ニ御受仕候事柄其後日ニ至リ私共ヨリ異
 議申上間敷候爲後證奥印仕候

年月日

住所	原告人
身分	氏名印
住所	被告
身分	氏名印

明治六年

明治六年

第九號

被告人連名中脱走又ハ病死人アルノ訴狀

某ノ訴

住所 身分 原告人 氏名

住所 身分 被告人 氏名

元住所 身分 被害人 氏名

右何ノ誰ハ年月日脱走致シ候段
何時役人何之誦ヨリ承知仕候

十

某
御裁判所

住所 身分 代書人 氏名印

右原告人氏名申上候云々

年月日

某
御裁判所

住所
身分
氏名
被告人

右何ノ誰ハ年月日死亡致シ候段
何柵役人何ノ誰ヨリ承知仕候

氏名印

住所

身分

氏名印

代書人

第十號

讓證文ヲ以テ催促スル訴狀

某ノ訴

一元金荷圓

一利金荷圓

合何圓

右證文寫左ノ如シ

住所

身分

氏名

原告人

住所

身分

氏名

被告人

明治六年

證書云々

右議證文ノ寫左ノ如シ

證書云々

右原告人氏名申上候云々

年月日

氏名印

住所

身分

代書人

氏名印

某
御裁判所

第十一號

代書人ヲ頼ム訴狀

某ノ訴

原告代書人

住所

身分

氏名

被告人

住所

身分

氏名

標記云々

右原告代書人氏名申上候云々

明治六年

年月日

代書人 住所 氏名印
身分 氏名印

前書ノ儀私ヨリ御願可申上等ニ御坐候處何々ノ旨趣ニ付
何之誰江代言相頼候然ルヒハ何之誰ヨリ申上候事柄并ニ
御受申上候事柄共後日ニ至リ私ヨリ異議申上間敷候爲後
證與印仕候

年月日

原告人 住所 氏名印
身分

某 御裁判所

第十二號

一時假リノ代言人ヲ出ス證書

當日代言人 住所 氏名印
身分

右ハ何々ノ儀私ヨリ誦出候付罷出委曲申上度奉存候處柄
氣ニ付今日限何之誰江代言相頼候若御尋之儀同人ニテ御
對申上兼候廉有之候ハ、私快氣次第罷出可申上候

明治六年

明治六年

第十三號

答書表紙ノ式
用紙寸法第一號
訴狀ノ法ノ如シ

年月日

某ノ答書

代書人
住所
身分
氏名

某
御裁判所

年月日

代書人
住所
身分
氏名印

答書ノ式

某ノ答

住所
身分
被告人
氏名

右住所身分何之誰何々之儀訴出候付今何日御呼出之御状

拜見仕御答申上候

私儀云々

證據ノ書類アラハ其寫ヲ記載スヘシ

右之通御坐候

年月日

氏名印

住所
身分
代書人
氏名印

某
御裁判所

第十四號
對決前熟議解訟ノ答書

某ノ訴濟口ノ答

住所
身分
氏名
被告人

右住所身分何之誰何々ノ儀訴出候付今尙日御呼出老御狀

并見仕原告人江熟談濟方仕候趣申上候

私儀云々

年月日

住所
身分
氏名印
代書人

前書被告人何之誰ヨリ申上候通熟談濟方仕候付此上對決ノ御裁斷不奉願候

年月日

住所
身分
氏名印
原告人
住所
身分
氏名印
代書人

某
御裁判所

明治六年

十六上

第十五號

對決前返濟延期ノ約定ヲ爲シタル答書

某ノ訴濟口日延ノ答

住所
身分
被告人 氏名

右住所身分何之誰何々ノ儀訴出候付今何日御呼出之御狀

拜見仕原告人江熟談之上濟方日延約定仕候敗左之通御坐

候

私儀云々

年月日

住所
身分
代書人 氏名印

前書被告何之誰申上候通熟談之上濟方日延約定仕候付
來何年何月何日迄御裁斷御猶豫奉願候

年月日

住所
身分
原告人 氏名印
住所
身分
代書人 氏名印

某
御裁判所

明治六年

十六下

第十六號

對決前他人代償ノ延期ヲ約シタル解訟ノ答書

住所
身分
被告
氏名

某ノ訴何之誰ヨリ日延代償ニテ濟口之答

右住所身分何之誰何々ノ儀訴出候付令何日御時出之御狀

拜見仕原告人江熟談之上^{親族}中何之誰ヨリ日延代償約定

仕候段之通御坐候

私儀云々

年月日

住所
身分
代書人
氏名印

前書被告人何之誰申上候通私共ヨリ日延代償ノ約定仕候

段相違無御坐候

年月日

住所
身分
代書人
氏名印

明治六年

前書被告人何之誰申上候通私共承諾仕候付此上對決ノ御
裁斷不奉願候

年月日

住所
原告人
身分
氏名印

住所
身分

代書人
氏名印

某
御裁判所

第十七號

對決前他人代償ノ延期ヲ約シタル答書

住所
身分
被告人
氏名

某ノ誰何之誰代償濟日日延ノ答

右住所身分何之誰何々ノ儀前出候付今何日御呼出之御狀
并見仕原告人江熟談之上親族中何之誰ヨリ代償濟方日延
ノ約定仕候段左之通御坐候

私儀云々

年月日

住所

身分

氏名印

代書人

氏名印

前書被告人何之誰申上候通私共ヨリ代償濟方日延ノ約定

仕候段相違無御坐候

年月日

住所

身分

氏名印

代償人

住所

身分

氏名印

代書人

前書被告人何之誰申上候通熟談之ヒ何之誰ヨリ代償濟方

日延約定仕候付來何年何月何日迄御裁判御猶豫奉願候

年月日

住所

身分

氏名印

原告人

住所

身分

氏名印

代書人

某
御裁判所

第十八號

外國原告人訴狀ノ式

訴狀

本國住所
身分
原告人
住所身分
被告人

氏名
氏名

右原告人氏名ヨリ右被告人氏名ニ對シ當御裁判所江左之

通訴訟申上候

第一云々

但シ訴訟ノ根源事實ノ大
略ヲ明白ニ認ムヘシ若共

第二云々

事實混交シテ長文ナル時
ハ第一第二第三條ト之ヲ
區別スヘシ

第三云々

依之原告人ヨリ御裁判所江云々被成下度願上候事

但シ何等ノ處置ハ原告人
ノ所願ニ候マ金子ノ拂カ
其金高何程カ右判然ト認
メ其他公正ノ御裁判ヲ願
ノ趣ヲ認ムヘシ

原告人

氏名花押

日本地名
年月日

明治六年

若シ原告人ノ代言者アル
時ハ左ノ如ク加判スヘシ

代言人

氏名花柳

某

裁判所長

氏名

485702

東塚本活氏棺